

# 人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 2. 17

人・街・ながた震災資料室

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

## 子どもたちへの



## メッセージ展2008に出展

「命の尊さ」「ともに生きることの素晴らしさ」等震災の教訓をテーマに震災を知らない、よく覚えていない子どもたちへ伝えるために開催される「子どもたちへのメッセージ展」へ人・街・ながた震災資料室より保存している資料の一部を出展します。(主催：神戸市保健福祉局人権推進課)

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成16年4月からこの運動は始まった。今までに1000通を超えるメッセージが集まっている。今回で4回目の今年のメッセージ展では、「震災当時の様子」「たすけあい」「教訓・備え」「命の尊さ」「子どもたちへ」「生きる喜び・希望」とテーマごとに展示ブースが設けられる。

「震災当時の様子」を伝える資料として震災資料室より、資料を展示することとなった。

蓮池小学校

で使用していた大釜、5時46分で止まったままの丸山中学校西野分校の大時計、当時の様子を伝える写真パネル、被災された方から寄贈された貴重な資料など展示する。

長田区に縁のある団体では、野田北部

まちづくり協議会、神戸学院大学水本ゼミが同様に展覧される。

### 「震災資料の保存・活用に関する研究会」に出席しました

2月13日、「震災資料の保存・活用に関する研究会」(主催：神戸大学震災資料保存・活用研究会)に当資料室より、清水他3人が出席しました。今年1月にリニューアルされた、人と防災未来センターの展示見学とセンター資料室の専門員より「展示リニューアルの概要と課題」をテーマとした報告を受けました。議論もそれに沿う形で、リニューアル前後の課題を取り上げ、複製・映像には無い“モノ”(実物)の力の大きさを感じるが、思うように展示に活かせない、メッセージがきちんと伝わらないのは裏づけとなる説明が不足しているから、などの意見が交わされました。

当資料室で行ってきたことがセンターでは課題となっており、少々驚きましたが、研究会を通じて議論を交わすことで、今後の取り組み・課題について各々が考えることができる機会だったと思います。

日時 2008年3月18日(火)

?

2008年3月27日(木)

午前10時～午後6時

場所 神戸市役所1号館2階

市民ギャラリー

(入場無料)

# 東丸山町・夜の神戸電鉄は銀河鉄道

4回の国勢調査を比較して⑬

4つのパターンに分けて各町通の人口の動きを見てきたが、東丸山町は④に属し、05/00年の減少率が16.4%と丸山地区では源平町と

	1955	1965	1975	1985	1990	1995	2000	2005
人口	288	761	516	374	334	385	281	235
男	140	385	265	184	161	187	142	112
女	148	376	251	190	173	198	139	123
世帯数	78	216	182	150	131	166	129	99
区人口	189,767	214,345	185,974	148,590	136,884	96,807	105,464	103,771

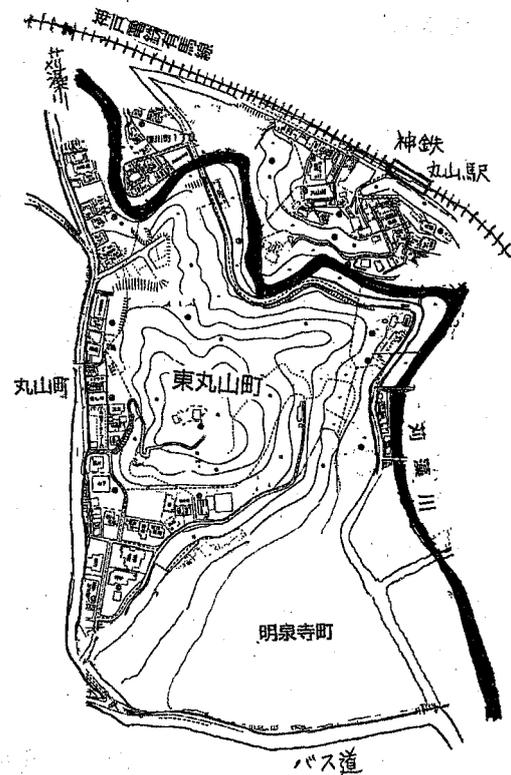
にも抜きん出ている。

町の東側は急峻な菊藻川、西側はバス道で家々は道路沿いに建っており、一部は山の中腹や河際にある。

表を見ると高度成長期に倍以上の増加があり、'65年の761人は区のピークと同じで男性が女性を上回っている。その後減り続けていく。減り方が75/65が△32%、85/75が△28%と区全体と比べて大きい。震災で一時的な仮住まいとして移住してきた人々で増加に転じたが再び高い率で減少している。

震災による被害は全壊が17.3%で、隣接する明泉寺町は10%であることから、斜面上に建築された家屋が多く被災したと思われる。震災前の住宅地図を持って現地を歩くと、新しい戸建も目に付くが、共同住宅(文化住宅)が2軒ほどに減っている。このことが'00年、'05年の減少の要因である。

ところで、東丸山町の南端には天然記念物に指定されている「丸山衝上断層」があり、妙昌寺の境内から眼下を見下ろすと名倉町まで凹地が続き、陥没と隆起の凄さがうかがえる。



また東側の菊水山に繋がる山腹には神戸電鉄が走っており、「丸山駅」は標高90mにあり、夜、バス道から眺めるとさながら「銀河鉄道」の世界である。

近畿産業局自主研究会「夢 創造の会」より、

今年も「元気のぞるみかん」が届けられ、施設へ配りました。